

2 学期終業式講話

おはようございます。本日をもちまして2学期を終了いたします。

皆さんの前でお話するのは11月5日の朝礼以来かと思えます。この4か月あまりの日々はいかがだったでしょうか。長かったなあと感じた人、短かったなあと感じた人、それぞれかと思えます。私は今月初めに2年生の海外研修で、シンガポール・マレーシアに行ってきました。自身5年ぶりのことで、前任校でも同じコースを行ってましたので、今回はビジネス探究科に同行させていただきました。

シンガポールから国境を越えてマレーシアに入りました。そこはジョホールバル市という日本男子サッカーが初めてワールドカップ出場を決めたサッカー場がある街でした。その一角の高校で交流しました。17歳の中学校5年生(高2)は生憎テスト中で、15、16歳の年齢の学生たちが対応してくれました。皆さん英語で対応しますが、単語を並べるとなんとか通じるんですね。向うの方も一生懸命聴こうと努力してくれますし、第二外国語で学んでいる英語を堂々と話してきます。我々日本人の方が発音がいいように思えるのですが、なぜか自信なげに話をしてしまうのが日本人の特色かと思えます。

私に対応したその高校の校長先生は女性の方で、ヒジャーブ、チャドルと呼ばれるスカーフを頭からかぶっていました。いわゆるイスラム教徒ですね。彼女たちは人前に肌を出さないという教えですので、当然のことですが、これについては地歴公民の授業で習ったかと思えます。

このイスラム教徒の教えを信じる方々は大変精神的に強いものがあります。六信五行とって6つのことを信じ、5つのことを行うことになっていますが、アラーの神を信じて、1日に5回の礼拝をします。シンガポールのホテルの近くにあったイスラム教寺院(モスク)からはコーランの音楽(お経)が流れていたことを、2年生は覚えていますか。

現在ガザ侵攻中のイスラエルはユダヤ教の国です。ユダヤ教はキリスト教の前の時代にできたもので、親戚筋にあたります。ガザはイスラム教の国で、いずれも強い信仰のもとで生きていますので、このあたりは日本では考えられないと思います。ウクライナ侵攻中のロシアはロシア正教とって、キリスト教のカトリックから分かれたものです。どの国も信仰心があって、それぞれの神への信仰は強いものがあります。

日本はどうでしょうか。皆さんはそうした信仰心というものがありますか。

実は1週間に3回も宗教を変えるのが日本人です。12月24日は皆さん何かしませんか。クリスマスケーキを食べたり、クリスマスツリーを飾ったりして突然キリスト教徒として振舞います。イエス・キリストの誕生日を祝っているんですね。それから1週間して31日の日は年越しそばを食べて、除夜の鐘を聞きます。これはお寺からですか仏教徒になるわけです。そして一夜明けて初詣で神社へお参りに行きます。ここは神道という日本古来の宗教です。神道の神様の名前はご存じですか。アマテラスオオミカミとって漢字で書くと、天照大神と書きます。昔授業で、てんてるだいじんと読んだ生徒がいましたが、神道という宗

教信者となります。3つの宗教を祝うなんて日本人だけで、その柔軟性はすごいと思います。私の妹はキリスト教の教会で結婚式を挙げて、亡くなる時は仏教徒となりました。その典型ですね。

しかし時にその信仰の柔軟さに弱さが出てしまいます。イスラム教徒は一生懸命努力した後は、なんとかなるだろうという居直りの強さをもっています。アラーの神がなんとかしてくれるだろうという一見楽観的なものがあります。日本人はそうした居直りがなく、悩んだりしてだんだん内に気持が入ってしまうところがあります。こういう点では信仰をもっている方々にはそれぞれの神様がいて、いざという時に救ってもらえるという心の拠り所があって、それが自分を支えているような節を感じます。

皆さんこの点いかがでしょうか。3年生は進路決定で色々悩んだ2学期だったのではないのでしょうか。1年生は高校生活を夢見てきたけれど、2学期は悩まされた人もあったかもしれません。そんな時信仰がないとどこに拠り所を求めるのでしょうか。やはり救ってくれるのは友人であって、その友人に恵まれなかった人は教員でも結構ですし、外部とつながることで救われた人もあったのではないかと思います。やはり人とのつながりは大切です。

改めてこの2学期、そして2024年という年を振り返ってみてください。2025年に向けてよいお年をお迎えください。

以上で校長講話とします。

(令和6年12月20日、終業式)